



1998年7月ICRP（国際放射線防護委員会）第3委員会の会議がペルーの首都リマで行われた。私の担当は、インターベンショナル・ラジオロジー（カテーテルを用いた経皮的血管形成術、動脈塞栓術などの総称でX線透視下に行われる）における放射線障害防止のための勧告文書を作成することであった。胃が痛くなるような5日間の討議を終えて原案をほぼ完成したあと、ここまで来たのだからと、インカ帝国の首都クスコ、マチュピチュを訪れることにした。海岸低地のリマから空路で一気に標高3,360mのクスコに着くとその日は頭痛に悩まされた。

インカは15世紀、南米大陸の西側の大半を占める大帝国（タワンティンスーユ）を築いたが、いきなり高度な文明が出現したわけではない。この地域では紀元前2000年ごろから小さな農村共同体が生まれ、紀元前1000年ごろからチャビン文化が興り、大神殿やピラミッドが建設されている。チャビン文化は紀元前200年ごろには消滅し、その後、各地域で多くの文化が栄えた。北海岸のモチエ文化は紀元前100年ごろ興り、灌漑によって砂漠を耕地化し、アドベ（日干しれんが）で大ピラミッドを築いている。南海岸ではナスカ文化が花開き、巨大な地上絵や美しい土器を産み出している。紀元7世紀から9世紀にはワリ帝国の西海岸統一があり、インカ道といわれる道路もこの時代に作られたものが少なくないという。その後のインカまでの400～500年は群雄割拠時代で、北にはチム文化、南にチンチャの王国があった。すなわち、インカ以前にも多くの優れた文明があり、インカ文化として紹介されている多くのものが先行した文化の所産であるという。実際リマには天野博物館、黄金博物館など多くの博物館があり、インカ以前の文化を展示したものが多し。脳外科手術が行われたこともよく知られているが、これもインカ以前の遺跡から発見された頭蓋骨が多く展示されていた。この時代の戦法では紐をつけた石や棍棒で敵の頭をなぐるので、陥没骨折がおり、これを取り除いて金属で被覆するのである。術後、長生きしたと思われる頭蓋骨もある。

クスコでは太陽神殿（コリカンチャ）のあとに建っているサントドミンゴ教会や郊外のサクサワマンの砦、聖なる泉タンボマチャイ（常と同じ量の水が絶えることがなく、サイフォンの原理で遠くから水を引いているらしい）などを見てまわった。いずれの遺跡でも目につくのは、隙間もないくらいぴったりと組み合わせて作られた石壁である。王宮、神殿など重要な建物は、カミソリのは1枚通さないといわれる、このインカ独特の石組みを用いている。特にサクサワマンの砦では、最大のものは高さ9.4m、幅4.75m、厚さ2.6mで重さ80t、120tの巨石が使われている。このような「人の手で作られたとは思えない」精巧な巨石建造物を見て、グラハム・ハンコックは超古代人（巨人？）が造ったのをインカが利用しただけではないか、と書いている。しかし、インカの王が王位につく度に親元から離れて新しい宮殿を作ったこと、そのために中央広場のまわりに各インカ王の王宮が立ち並んだことは征服者（スペイン人）たちの記録にあり、サクサワマンの砦に至っては、スペイン人が到着した時にもまだ作業小屋が残っていたという。また、リマでみたパチャカマ遺跡などは、紀元600年ごろのアドベで築いた神殿であるが、これを征服したインカは、その上に積み重ねるようにインカ独特の石組みで神殿や太陽の処女の館を築いている。

クスコに1泊し、翌早朝、列車アウトバゴンでマチュピチュに向かった。クスコは3000m以上の高地にあるのだが、周囲はさらに高い山に囲まれており、列車はハッチバック式に山を登って越え、北西へ進んだ。線路に沿ったウルバンバ川も北西へ流れている。3時間で列車を降りると、マチュピチュ観光の基点となっている小さな町があり、さらにバスで25分かけて山を登る。山頂から少し下った所のやや平坦な尾根に見事な都市が広がっている。あるテレビ番組で、太陽を崇拝するインカの人々は少しでも太陽に近いところに住もうとした、と説明していたが、マチュピチュの標高は2800mでクスコより低いのである。当然のことながら、クスコ

周囲の山の方がマチュピチュよりずっと太陽に近い。それでは、インカは何故、遠く離れた山の上に都市を造ったのだろうか。ガイドブックには、秘密の軍地基地ではないかとも書いてあるが、アウトバゴンの車窓からみえたインカ道は山をいくつか越えてマチュピチュまでつながっている。秘密の基地へ行くのに石段まであるような道をつけるとは思えない。また、インカはクスコを征服されてからもウルバンバ川に沿って北へ逃れながら戦っていた。オリヤンタイタンボ砦を経てさらに下流の秘境ビルカバンバ地方に退いたが、マチュピチュでは戦いは行われていない。戦いがあったとすれば、スペイン人の記録に残っているはずだ。ヨーロッパの王は、別荘や保養地を持っていたが、クスコとマチュピチュの間は遠すぎる。列車で3時間だが、インカはクルマを持たなかったため徒歩で4日かかる。それに別荘にふさわしい見晴らしのいい山ならクスコの近くにいくらでもある。

背後の山を少し登って、空中都市の写真を撮る。正面にそびえて見えるのは、ワイナピチュ。マチュピチュから道がつづいており、登れば眺めは素晴らしいと言われたが、時間的余裕がなくあきらめた。ワイナピチュの山頂にも神殿がある。周りの山はここより高く、どの山からもこの都市の様子が観察出来るだろう。当時は背後の山から入るわけで、隣の山から入ってきた所に門がある。地形からみても軍事基地ではない。上から攻められてきたら一溜まりもなく、押し込まれたら崖から落ちるしかないのだ。軍事基地としてはクスコにあるサクサワマンの砦が有名だが構造がまったく違う。マチュピチュには、都市の機能がすべて備わっていて、王族の館、神殿から牢獄まである。もしここがインカにとっての特別な聖地であつたらどうだろうか。ここに来るまではその可能性も大きいと考えていたが、その場合は神殿の規模は比較にならぬほど大きなものになっていただろう。パチャカマなどの他の遺跡と比べればわかる。また、このような空中都市はインカの人々にとっても稀有なものであり、聖地とすれば少なからず伝

承や記録があるはずだ。伝わるものが何もないということは、一般の人々には秘密にしておきたい何かがあつたのではないかと考えられる。

インカ帝国の首都だったクスコの町とマチュピチュを比べるとどうだろうか。インカの精巧な石工技術は、マチュピチュでも宮殿や神殿などの重要な建造物にみられる。一般の家々の造り方は少し雑だが、全体としてクスコのミニチュア版とっていい。都市のはずれには石切り場と呼ばれる所があり、切り出し途中の石が放置されている。インカが造つたものに間違いはないであろう。グラハム・ハンコックは巨大なブロック石を見て、どうやってここまで運び上げたのだろうか、と述べているが、インカは他の巨大建造物と同様に人海戦術を用いたと思われる。インカが多数の民衆の動員力を持っていたことは記録にある。サクサワマンの砦の建造には常に2万人が動員され、4000人が石を切り出し、6000人がそれを引っ張ったといわれている。インカのやり方は論理的で、強制労働というより、見返りに食物、衣料を与える契約のような形をとっている。それだけに無駄のものは造っていない。それでは、マチュピチュを造る必要性は何だったのだろうか。山上まで多くの人員を動員するのは容易でなかったはずだ。

私の結論は、後継争いなどのお家騒動に関係したものではなかったかということだ。いろいろな状況が考えられるが、南北朝時代に京都に対抗した吉野朝廷のような状況、すなわちクスコに対立する王の存在は考え難い。場所が悪すぎるし、戦う体制にない、むしろ隠岐の島に流された後醍醐天皇のような状況に近い。不便さと距離を考えれば、まさに島流しのようなものだ。

帰国後、図書館でインカの歴史を調べると、興味ある事件が浮かび上がった。すなわち、好戦的なチャンカ族がインカの富のうわさを聞き、クスコに攻めて来た時のことである。当時の皇帝ウィラコチャ・インカと臆病な長男ウルコは自分達だけ逃亡してしまった。この時、残され

た貴族達に推された勇敢な次男ユキンバはインカ軍を召集して先頭に立って戦い、激しい攻防の末、チャンカ族を全滅させた。即位して第9代の王パチャクティとなった彼は、大規模な征服に乗り出し、領土を広げたという。父や兄がどうなったかは伝わっていないが、パチャクティはその処理に困ったはずだ。直接争ったわけではなく殺すわけには行かない。しかし、近くには目ざわりである。マチュピチュのような所に押し込めておき、おとなしく暮らしてく

れば言うことない。次の世代になっても反乱を起こしにくい場所に王族としてのメンツの保てる町を造ってやればいいと考えたのではないだろうか。多くは秘密裡に行われ、そのために伝承などが無いのではないだろうか。

マチュピチュを訪れた日はポカポカと暖かく、インカの人たちが、静かに暮らしていた昔が偲ばれた。クスコを追われた人たちが住んでいたとすれば、ここにはまぎれもなく平和と安らぎがあった事だろう。

参考図書：フランクリン・ピース, 増田義郎『図説インカ帝国』 東京, 小学館, 1988

図書館所蔵：吹図開架図書 請求記号：268/P

(なかむら・ひろのぶ, 医学系研究科教授, 生命科学分館長)

## 電子図書館への招待 その3 Science Direct Navigator

「Science Direct Navigator」は、今年度から附属図書館とサイバーメディアセンターが連携して提供している新しいデータベース・サービスです。今回は、このデータベースの概要と使用方法を簡単に説明します。

### 1. Science Direct の検索機能

エルゼビア社の学術雑誌を中心に約1200タイトルの電子ジャーナルを提供しているScience Direct (以下, SD) を利用している方は多いと思います。このSDの検索機能の一部として、外部で製作された文献データベースを利用できるのが、SD Navigator です。

利用統計によれば、2001年4月から2002年3月までに、大阪大学で利用されたSDのフルテキストの件数は一月あたり2万件近くになります。フルテキストにアクセスするには、特定のタイトル、巻号、ページに掲載された論文を目次から拾い出す「ブラウズ」による方法と、キーワードや著者名から論文を探す「検索」による方法がありますが、この期間中にブラウズによってアクセスされたフルテキストは合計222,244件に対し、検索によりアクセスされたフルテキストは合計28,334件と約10分の1に

なっています。

このように、SDの利用者の中で検索を利用されている方は相対的に少ないのですが、検索機能について情報があまり知られてないことも理由の一つではないかと思われます。

次の図は、SDのホーム画面です。画面上部に並んでいるボタンの内、「Publications」をクリックすると雑誌のタイトル一覧が表示されます。ここから目的のタイトルを探し出してフルタイトルにアクセスするのがブラウズ機能になります。検索機能を利用するにはその右隣の「Search」ボタンをクリックします。

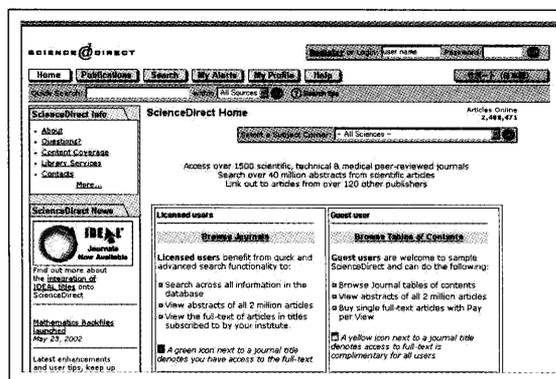


図 1

次の図がSDの検索画面です。上部のタグには、「All Sources」(デフォルト)、「Journals」、「Abstract Databases」、「Reference Works」、「Sci-us」と検索対象の選択肢が並んでいます。最後の二つについては、今回のテーマとは直接関係がないので触れません。

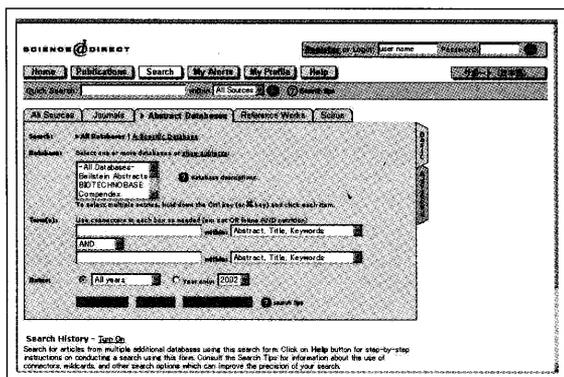


図 2

検索対象を「Journals」にすると、SDの収録する雑誌論文のタイトル、著者名、抄録からの検索になります。検索結果は、SD自体のデータなので、ほとんどがフルテキストデータにリンクしています。その右隣の「Abstract Databases」で利用できるのが、今回紹介するSD Navigatorの機能です。後で説明しますように、SD Navigatorのデータベースを利用する場合、検索結果がたまたまSDに含まれているタイトルの場合はフルテキストデータが利用できますが、そうでない場合は通常の文献データベースと同じように書誌情報と抄録だけが利用できます。つまり、フルテキストデータだけを探したい場合は「Journals」、一般的に文献を探したい場合は「Abstract Database」または「All Sources」が適しています。

## 2. Science Direct Navigator の内容

SD Navigatorで利用できるデータベースは、以下のとおりです。Medline以外のデータベースについては、SD本体とは別の契約により提供されています。

### Compendex (工学分野)

3,000誌以上の雑誌を対象に、工学・技術分野全般のほか、広範な関連領域をカバーするデータベースです。収録範囲：1970年～現在。

### Beilstein Abstracts (化学分野)

Beilstein Handbookに収録された論文をはじ

め、有機化学物質に関する情報を収録しています。収録範囲は1980年以降で、データベース検索システムで提供しているCrossFireのBeilsteinとは収録範囲が違っていますので、ご注意ください。

### Biotechnobase (バイオテクノロジー関連)

280誌以上の雑誌を対象とし、バイオテクノロジー分野の基礎から応用までの文献をカバーしています。収録範囲：1980年～現在。

### Elsevier Biobase (生物学分野)

1,800誌以上の学術雑誌、書籍、及び会議録を対象に、生物学と関連分野の文献をカバーしています。収録範囲：1994年～現在。

### Embase (医学分野)

Medlineと並ぶ医学分野の代表的データベースです。4,000誌以上を対象に、医学・薬学分野の文献を包括的にカバーしています。収録範囲：1974年～現在。

### Fluidex (流体関連)

500誌以上の出版物を対象に、流体力学、流体工学など、流体に関する文献情報を収録したデータベースです。収録範囲：1974年～現在。

### Geobase (地理関連)

人文地理、自然地理関係の文献をカバーするデータベースです。3,000誌を超える雑誌のほか、2,000以上の雑誌外情報を収録しています。収録範囲：1980年～現在。

### Ocearbase (海洋学関連)

3,000誌以上の雑誌及び各種出版物を対象に、海洋科学・海洋技術の文献情報を収録したデータベースです。収録範囲：1993年～現在。

### World Textiles (織物関連)

織物産業と関連技術に関する文献情報を収録したデータベースです。収録範囲：1970年～現在

### INSPEC (物理、工学分野)

物理、工学分野の世界的に有名なデータベースです。4,000誌以上の雑誌、2,000以上の会議録その他の出版物を対象に、物理学、電気工学、制御工学、コンピューター技術、エレクトロニクス、情報技術、通信技術関連の文献情報を収録しています。

### Medline (医学分野)

医学分野の代表的データベースです。データベース検索システムでは、このScience Directの他に、学内サーバシステム(ERL)及びSciFinderの一部としても提供しています。このMedlineだけは、Science Direct本体を契約していれば自由に使うことができます。

### 3. 利用方法

ここでは特定のデータベースの利用を想定して、利用方法を簡単に説明します。

1. で説明しましたように、SDのホームページから「Search」を選び、さらに「Abstract Databases」を選ぶと、次のような検索画面が出ます。検索方式にはデフォルトの「BASIC」と「ADVANCED」（検索式を入力する方式）がありますが、ここでは「BASIC」の紹介をします。

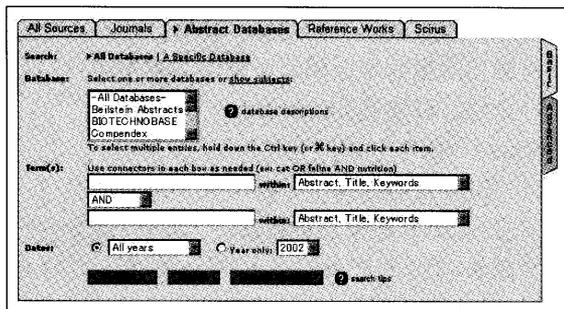


図 3

BASIC検索画面は、ほとんどが説明なしに感覚的に操作できるようになっています。以下に注意の必要な項目を挙げておきます。

Search: 通常はデフォルトの「All Databases」でかまいません。得に理由がない限り「A Specific Database」を選択する必要はありません。

Databases: デフォルトでは何も選択されていない状態です。ここで少なくとも一つの選択肢を選んで反転表示させておかないと、検索ができません。一番上の「All Databases」を選ぶと、全データベースの横断検索ができます。複数のデータベースを選択したい場合は、Ctrlキーを押しながらクリックします（Windowsの場合）。

検索語の入力については、他のWeb版データベースや検索エンジンで使われている方式と基本的に同じです。前方一致は、標準的な「\*」を使います。

データベースを選択し、検索語を入力した後に、下の緑色の[search]ボタンを押すと検索を開始します。検索結果が多すぎる場合は、警告メッセージが出て結果は表示されません。

検索結果は200件ごとに、書誌事項と情報源の簡略情報が一覧表示されます。

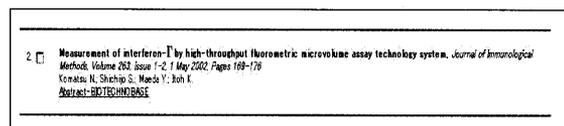


図 4

リンクになっている情報源の部分をクリックすると、次のような画面になり、文献データベースに収録されている書誌情報、抄録が表示されます。

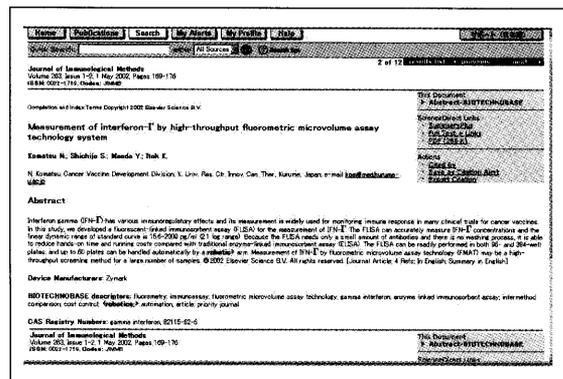


図 5

この雑誌はSDに収録されているため、右上にScienceDirect Linksとしてフルテキストデータ等へのリンクが表示されていますが、SDに収録されていないタイトルの場合、この部分は表示されません。その下の[Action]で、[Export Citation]を選ぶと、表示中のデータをEndnote等のツールに出力したり、テキストファイルとして保存したりすることもできます。

### 4. Science Direct Navigator とデータベース検索システム

このように、SD NavigatorはScience Directの検索メニューの一部に入ってはいますが、その内容は単独でも書誌データベースとして利用価値のある多くのデータベースを含んでおり、電子ジャーナルの付属機能にとどまらない利用価値を持っていると言えます。

最初に述べましたように、SD Navigatorはデータベース検索システムの一部として提供されているもので、無料期間が終わりますと、申請した利用者の方しか使えなくなります。申請されてなくてもSDそのものを使うことはできませんが、検索機能でAbstract Databasesを使うおうとすると、Medlineだけしか利用できなくなります。無料期間は7月末までになる予定です。それまでにSD Navigatorをご利用いただき、利用申請を検討する材料としていただきますよう、お願いします。

(文責：情報サービス課・山崎隆史)

■■■■■■■■ 教官著作寄贈図書 ■■■■■■■■

本 館	
<b>沖田 知子</b> (言文、教授)	新えいご・エイゴ・英語学 / 稲木昭子, 堀田知子, 沖田知子著 東京: 松柏社, 2002
	コンピュータの向こうのアリスの国 / 稲木昭子, 沖田知子著 東京: 英宝社, 2002
<b>太田 信義</b> (理、助教授)	超弦理論・ブレイン・M理論 / 太田信義 著 東京: シュプリンガー・フェアラー東京, 2002
生命科学分館	
<b>武田 裕</b> (医、教授)	電子カルテネットワーク: 医療の新しい風 / 武田裕監修; 四国産業・ 技術振興センター編 東京: エムイー振興協会, 2001 (吹田分館にも寄贈)
<b>野島 博</b> (微研、教授)	ゲノム工学の基礎 / 野島博著 東京: 東京化学同人, 2002 (微生物病研究所図書室にも寄贈)
<b>平出 敦</b> (医、助教授)	拍動よ、よみがえれ!: 病院の外で心停止となった方へのアプローチ / 平出敦著 大阪: メディカルレビュー社, 2002
<b>中村 仁信</b> (医、教授)	ケースレビュー泌尿生殖器の画像診断 / Glenn A. Tung; 鳴海善文, 中村仁信監訳 東京: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2002
吹 田 分 館	
<b>畑中 吉治</b> (核物研、教授)	SPIN 2000: 14th International Spin Physics Symposium, Osaka, Japan, 16-21 October 2000 / editors, Kichiji Hatanaka ... [et al]. Melville, New York: American Institute of Physics, c2001
<b>赤澤 堅造</b> (情報科学研究科、教授)	生体情報工学 / 赤澤堅造著 東京: 東京電機大学出版局, 2001 (バイオメカニズム・ライブラリー)
<b>吉村 英祐</b> (工、助教授)	性能規定化時代の防災・安全計画: 事例で解く改正建築基準法 / 日本建築学会編 東京: 彰国社, 2001
<b>奥 健夫</b> (産研、助教授)	ナノ構造解析: 高分解能電子顕微鏡で見る原子の世界 / 奥健夫著 名古屋市: 三恵社, 2001
<b>宇都宮 裕</b> (元・工、助手)	棒線工学フォーラム研究資料集 / 日本鉄鋼協会創形創質工学部会[編] 吹田: 大阪大学工学研究科マテリアル科学専攻, 2001
<b>室岡 義勝</b> (情報科学研究科、教授)	シーズとニーズ: グリーンケミストリーによる新産業創出 / 日本農芸 化学会編; 室岡義勝監修 東京: 培風館, 2001
<b>村田 路人</b> (文、教授)	大阪文化と大高: 旧制大阪高等学校創立八十周年記念誌 大阪: 旧制大阪高等学校同窓会, 2001

西脇 醇 (元・工作セ、助教授)	鉄合金状態図集：二元系から七元系まで / O.A.バニフ[ほか]編著 東京：アグネ技術センター, 2001
片岡 勲 (工、教授)	数値解析入門 / 片岡勲 [ほか] 共著 東京：コロナ社, 2002
横田 隆司 (工、助教授)	マンション管理実務読本 / 日本マンション学会関西支部編 東京：オーム社, 2002
三谷 康範 (工、助教授)	電力系統工学 / 長谷川淳 [ほか著] 東京：電気学会 東京：オーム社 (発売), 2002
中西 通雄 (サイバー、助教授)	IT社会の法と倫理 / サラ・バーズ著; 日本情報倫理協会訳 東京：ピアソン・エデュケーション, 2002
吉野 勝美 (工、教授)	温故知新五十年：ふるきをたずねてあたらしきをしる / 吉野勝美著 東京：コロナ社, 2000
	番外国際交流：余談、冗談 / 吉野勝美著 東京：コロナ社, 2000
	雑学・雑談・独り言 / 吉野勝美著 東京：信山社出版, 1992 (信山社随筆文庫; 9)
	過去・未来五十年：科学・技術・社会・自然 / 吉野勝美著 東京：コロナ社, 1995
	導電性高分子のはなし / 吉野勝美著 東京：日刊工業新聞社, 2001 (Science and technology)
柏原 士郎 (工、教授)	進化する建築保全：LCCからFMまで / 巽和夫, 柏原士郎, 古阪秀三編著 京都：学芸出版社, 2002

(敬称略、受付順)

## ■■■■■ お知らせ ■■■■■

### ●データベース検索システムで新データベースのサービス開始

附属図書館では、今年度からサイバーメディアセンターと連携して以下のような新しいデータベースの提供を始めています。

#### ・SciFinder Scholar

化学分野を中心とする科学文献情報が統合的に検索できるデータベースです。

Chemical Abstractsの1907年以降の文献情報を収録したCaplusをはじめ、REGISTRY (化学物質情報)、CASREACT (有機化学反応情報)、CHEMLIST (既存化学物質台帳情報)、CHEMCATS (試薬・化成品カタログ情報)、

MEDLINE (医学情報) の各ファイルが利用可能です。キーワードによる検索の他、構造型、反応式による検索も可能です。

#### ・CrossFire

有機化学分野の代表的なデータ集であるBeilsteinと、無機化学分野のGmelinをベースにした化学情報のデータベースです。化合物情報、反応情報、物性情報、文献情報を収録しており、化合物特性、反応条件、部分構造、反応式等から化合物情報、反応情報を検索することができます。

#### ・ Science Direct Navigator

Science Direct の検索機能の一部として、Compendex、Beilstein Abstracts、Biotechnobase、Elsevier Biobase、Embase、Fluidex、Geobase、Oceanbase、World Textiles、INSPEC、Medlineの各種データベースが利用できます。詳細については、今号の紹介記事をご覧ください。

#### ・ ERL Web インターネット版

SilverPlatter社のデータベース・システムERLのインターネット版です。従来学内サーバから提供していたERLデータベースのPsycINFO、ERIC、EconLIT、MLA International Bibliography、Index to Legal Periodicalsに加え、別システムで提供していたBooks in Print、Ulrich's、Dissertation AbstractsもERLシステムに統合し、同一のインターフェースで検索できるようになりました。

無料データベースとして提供していたWeb of Scienceは、今年度からJCR Webと合わせてデータベース検索システムで提供されることになりました。

また、次のデータベースが、学内で自由に検索できるようになりました。

#### ・ MAGAZINEPLUS/BOOKPLUS

日外アソシエーツのインターネット版データベース NICHIGAI WEB の一部です。MAGAZINEPLUSは、国内で発行された14,000誌の雑誌記事情報の他、年次研究報告、学術論文集を含む雑誌・論文情報データベースです。データ件数は約650万件(2002年5月現在)。データには雑誌記事索引の内容をすべて含みます。このため、今年度のデータベース検索システムからは雑誌記事索引をはずしています。

BOOKPLUSは、昭和元年より現在までに出版された本の情報を収録したデータベースです。データ件数は170万件以上(2002年5月現在)。1986年以降の本には、内容・目次情報も収録しています。

なお、CrossFire とMAGAZINEPLUS/BOOKPLUSについては、第6地区(大型計算機利用大阪地区)に限り、サイバーメディアセンターから学外へサービス可能です。CrossFireは条件が厳しく、また10ユーザまでとなっています。詳しくは、電子図書館掛までお問い合わせ下さい。

(d-lib@library.osaka-u.ac.jp)

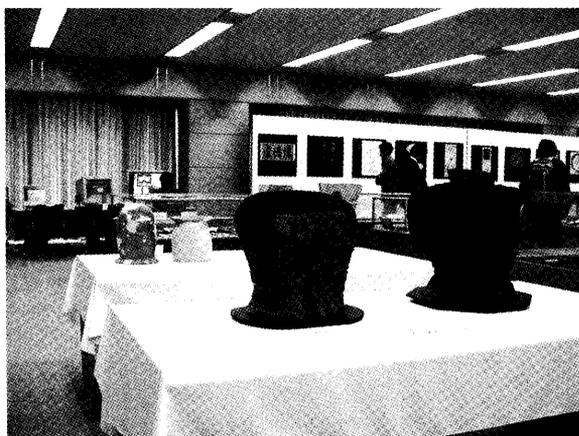
---

#### ●平成 14年度いちよう祭展示会および図書館施設公開

いちよう祭行事の一環として、文学・法学・経済学3研究科・学部と附属図書館の共催で展示会を開催、併せて今年度は附属図書館A棟の施設公開も実施しました。

展示会は例年1日のみの開催でしたが、今年度は祝日を含めて4月29日～30日の両日開催しました。展示会場をA棟6階ホールに移し、会場が広くなり、前年より出展点数が増加しました。

参観者総数は494名でした。



展示会会場風景

## ■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■

**分館長会議** 3. 6 (水) 14:00～14:40  
 図書館委員会の進行等について、協議した

**図書館委員会** 3. 6 (水) 15:00～16:10

1. 平成14年度事業費予算要求について、協議した。
2. 平成15年度新規概算要求について、協議した。
3. 平成14年度データベース検索システムの料金について、協議した。
4. (1) 図書館委員会規程  
 (2) 附属図書館豊中地区運営委員会規程  
 (3) 附属図書館生命科学分館運営委員会規程  
 (4) 附属図書館生命科学分館長選考規程  
 (5) 附属図書館電子図書館システム専門委員会設置要項  
 (6) 附属図書館データベース検索システム専門委員会設置要項  
 の一部改正を承認した。
5. 平成14年度研究開発室室員の選考について、審議した。
6. 独立行政法人化対応について、協議した。

**生命科学分館運営委員会** 3. 8 (金) 9:30～11:00

1. 細胞生体工学センターの改組による各種規程類の制定及び改訂について原案通り了承された。
2. 平成14年度資料費部局分担金額について、原案通り了承された。
3. 各種サービスの改善－カラーコピー料金の値下げ、開館予定日の拡大、視聴覚資料の利用の緩和－につき提案があり了承された。
4. 生命科学分館の今後のあり方についての意見交換があった。

**吹田地区運営委員会** 3. 20 (水) 13:30～15:20

次の事項について審議を行った。

1. 図書館体系検討小委員会委員に谷口研二工学研究科教授を選出した。
2. 平成14年度図書資料(大型コレクション)集書計画調書について
3. 学生用参考図書の選定について
4. 吹田分館関連の次年度予算要求について

**豊中地区図書選定小委員会** 5. 10 (金) 10:00～11:20  
 平成14年度図書資料(大型コレクション)収書計画について、協議した。

## ■■■■■■■■ 日 誌 ■■■■■■■■

H 14.	3. 6	分館長会議	(本館)
	3. 6	図書館委員会	(本館)
	3. 11	外国雑誌センター館会議	(東京工業大学)
	3. 18	近畿地区国公立大学図書館協議会講演会	(京都大学)
	3. 20	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
	4. 22	近畿地区国立図書館協議会	(京都大学)
	5. 10	豊中地区図書選定小委員会	(本館)
	5. 21	国立大学附属図書館事務部課長会議	(学術総合センター)
	5. 22	国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会	(東京大学)
		国立大学図書館協議会著作権特別委員会	(東京大学)
		国立大学図書館協議会常務理事会	(東京大学)
	5. 23	国立大学図書館協議会図書館高度情報化特別委員会	(東京大学)
		国立大学図書館協議会理事会	(東京大学)
	5. 23～24	日本医学図書館協会総会	(松山市・南海放送本町会館)

大阪大学図書館報 Vol. 36 No. 1 発行所 大阪大学附属図書館	通巻 143号 2002年 6月30日発行 豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070 e-mail: sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp
---	--